

社会的インパクト投資の発展と社会的インパクト評価

2016年11月27日(日)

日本評価学会第17回全国大会

共通論題6「ソーシャルセクターにおける評価の動向と課題」

ソーシャル・ファイナンス研究会代表 小林立明

■ 「社会的インパクト投資」とは

- 経済的リターンと共に、社会・環境的インパクトを生み出すことを意図する投資
- 対象領域は、農業、環境、金融、住居、医療保健、教育、雇用など多岐にわたる

■ 「社会的インパクト評価(IM: Impact Measurement)」とは

- 社会的インパクト投資の発展に伴い、投資の「社会・環境的インパクト」を定量的に評価するために開発されてきた手法。
- 従来の「インパクト評価」を踏まえ、投資の観点から独自の手法が開発されてきている。

■ 「社会的インパクト評価(IM)」の発展

- 投資における意思決定情報を得るという観点から様々な指標が開発されてきたが、市場拡大の観点から、標準化が進められている。

■ 「社会的インパクト評価(IM)」の現状

- 多くの社会的インパクト投資家は、社会的インパクト評価の重要性を理解。標準化も進んでいる。
- 他方で、独立した評価チームによる評価を行っている団体は少なく、外部専門家を活用しているところはほとんどないというのが現状。

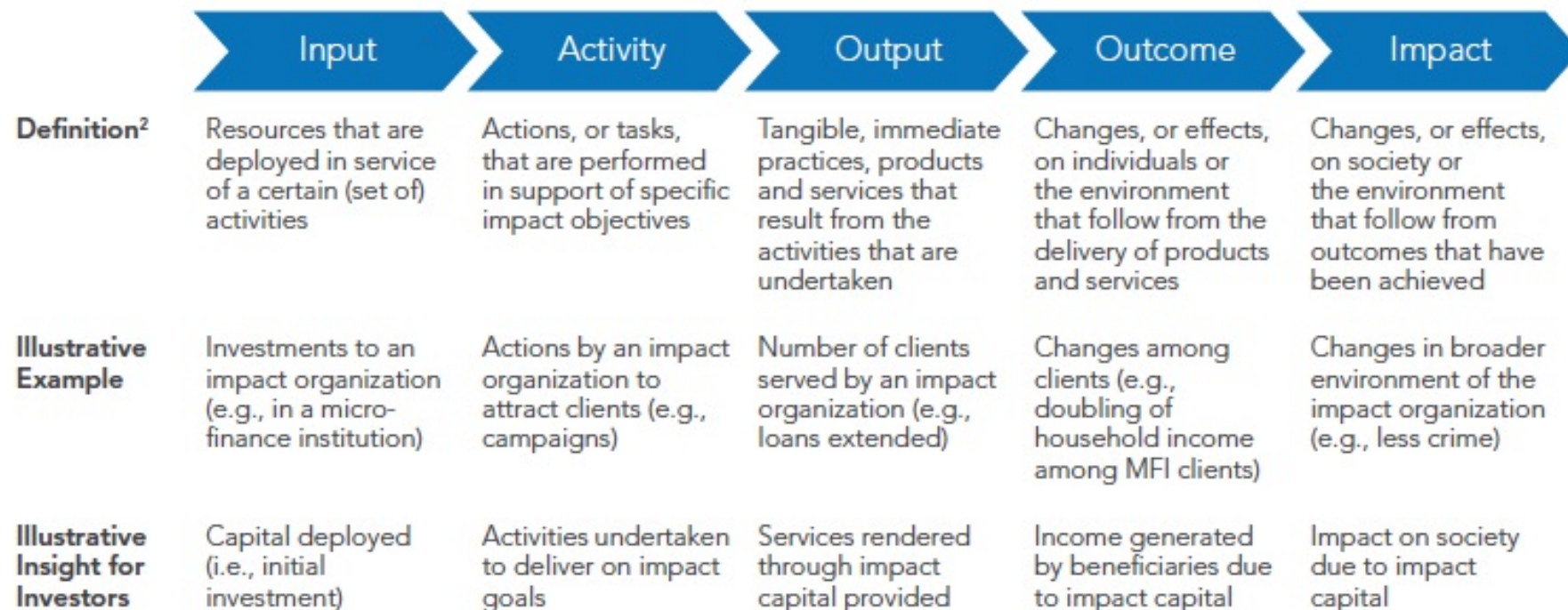
■ 「社会的インパクト評価(IM)」の課題と展望

- 標準化・共通化が進展している一方、より質的な分析や業務改善に役立てようという動きもある。
- 投資家が一方的に設定した指標がもたらす弊害を踏まえ、これを改善しようという動きもある。

■ 「インパクト価値連鎖 (Impact Value Chain)」

- ロジックモデルに基づく評価の基本的枠組み
- 「インパクト」は「達成された成果から生じる社会・環境面への影響や変化」と定義

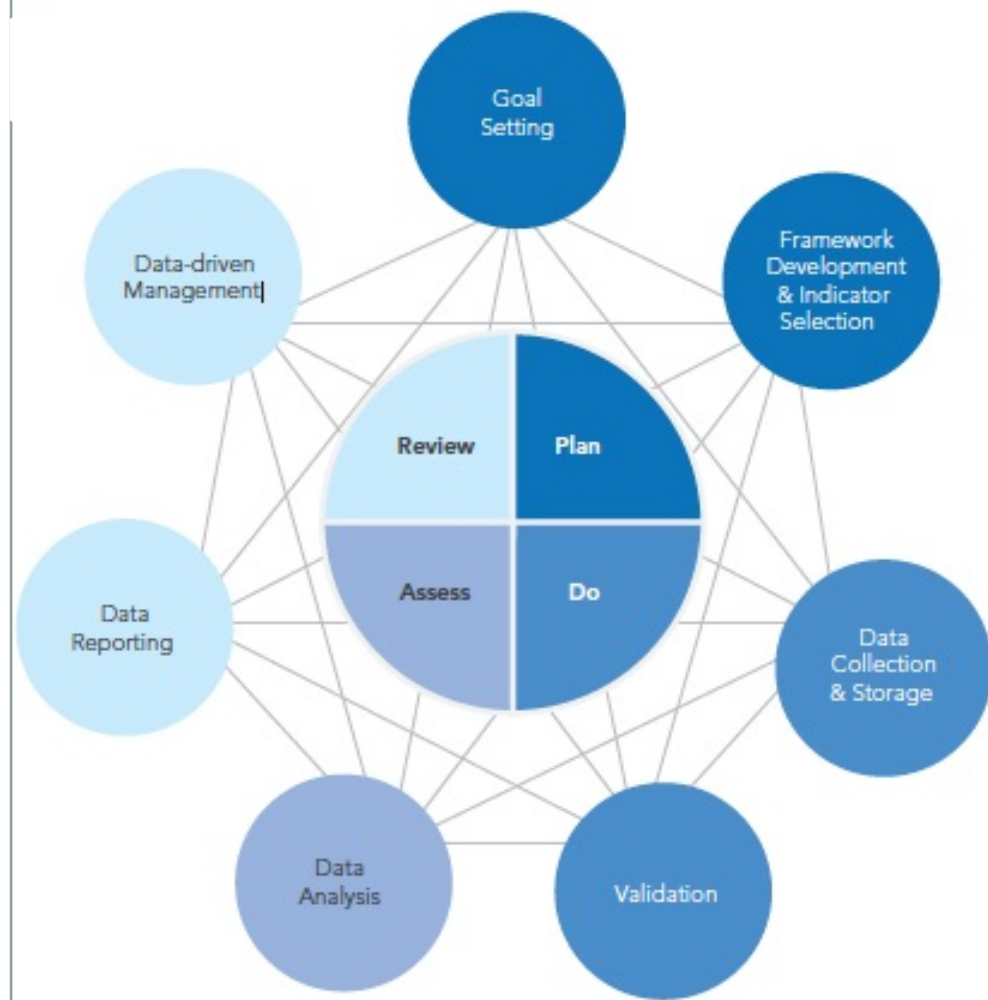
Exhibit 3: Impact Value Chain¹



■ インパクト評価の4局面とガイドライン

- PDCAサイクルを援用
- 各局面の作業も通常の評価と同じ
 - 目標設定
 - 評価枠組み開発と指標選定
 - データ収集&保存
 - 妥当性検証
 - データ分析
 - データ報告
 - データに基づくマネジメント

Exhibit 4: The Phases and Guidelines for Impact Measurement

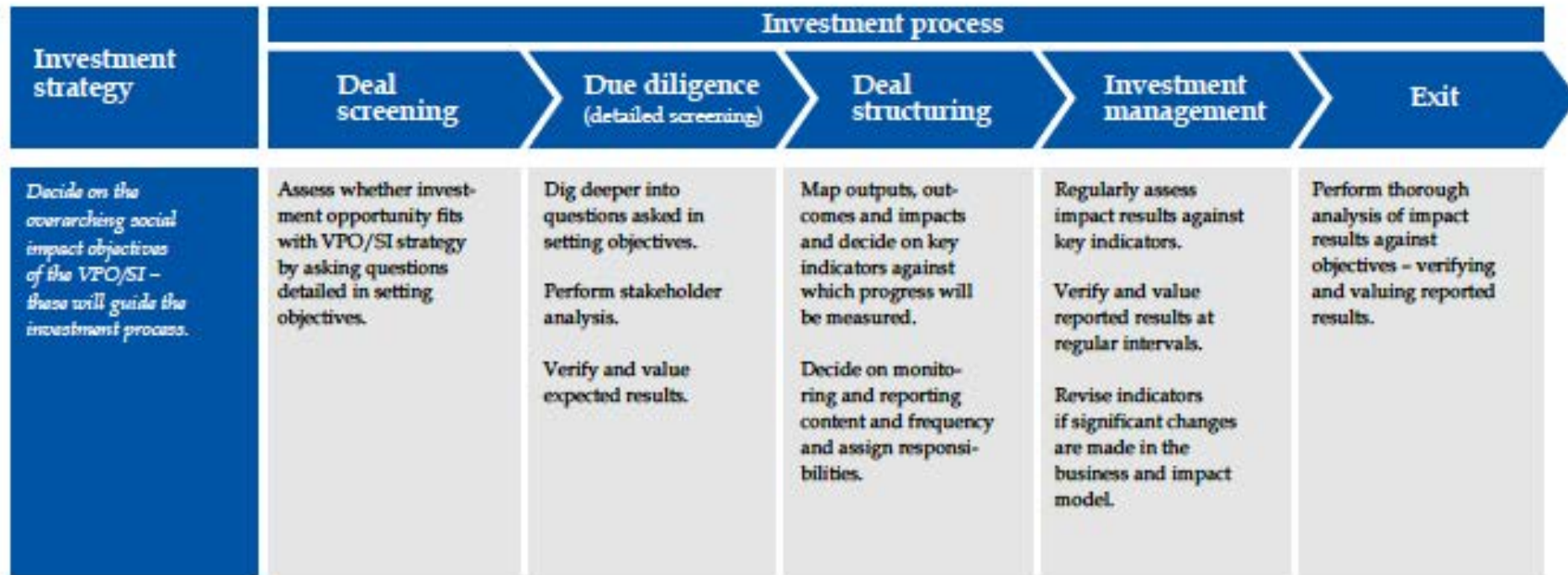


(Social Impact Investment Taskforce (2014))

3. 社会的インパクト投資に固有な評価手法

□投資の各プロセスにおける意思決定に必要な固有の評価手法

- 「案件審査」⇒「投資適格性審査」⇒「案件組成」⇒「投資マネジメント」⇒「投資終了」の各プロセスにおいて、評価指標が開発されている。
- 評価指標は、インパクト投資家の投資選好と投資戦略に応じて多様。しかし、市場の発展のために取引コストを下げるという観点から、評価指標の共通化が進められている。



□ 指標標準化の具体例

案件審査	<ul style="list-style-type: none"> 社会的企業の認証 例) B-Corps 社会的企業・投資仲介機関の格付 例) B AnalyticsのGIIRS Ratings、NatWestのSE100 Indexes
デュー・ディリジェンス	<ul style="list-style-type: none"> 社会的証券取引プラットフォームによる情報提供 例) IIXのImpact Exchange、Mars CenterのSVX、英国SSE
投資 マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 各種ダッシュボードやスコアカードを活用したモニタリング 例) EndeavorのImpact Assessment Dashboard 成果指標 例) BSCのアウトカム・マトリックス、GIINのIRISマトリックス 等
投資終了	<ul style="list-style-type: none"> 社会的インパクト評価報告 例) B Impact AssessmentによるB Impact Report 例) Investing for Goodのthe Methodology for Impact Analysis and Assessment(MIAA)等
その他	<ul style="list-style-type: none"> 様々な標準化やガイドライン策定の試み 例) EUのStandards for Social Impact Measurement 例) G8SITFのGuideline for Good Impact Practice 等

3. 社会的インパクト投資に固有な評価手法

- G8社会的インパクト投資タスクフォースは、ESG投資との統合を通じた社会的インパクト投資市場の更なる拡大を提言。
1. 報告基準との連携(社会的インパクト報告へ)
→国際統合報告フレームワーク(IR)、GRI持続可能報告ガイドライン(G4)など
 2. 会計・財務基準との連携(社会的会計・監査へ)
→持続可能な会計基準委員会(SASB)、国際財務報告基準(IFRS)など
- (Social Impact Investment Taskforce (2014))

社会的インパクト市場の発展階梯



Spectrum of Measurement Approaches	Organisational Guidelines	Organisational Guidelines	Issue- & Regional Guidelines	Global Guidelines	Standards	Standards	Formalized Reporting & Disclosure Regimes
	(Private)	(Shared)	(Optional)	(Optional)	(Optional)	(Required)	
Illustrative Measurement Approaches	Endeavor Impact Assessment Dashboard	Acumen's BACO Methodology *	EU Standard (GECES)	Social Return on Investment (SROI) Methodology	IRIS Metrics	<i>Illustrations from analog markets (no impact examples available):</i>	
	Sonen Capital's Impact Measurement Approach	Gates, Hewlett & Rockefeller Fdn Impact Measurement Principles IFC's DOTS Framework	EVPA Guidelines NPC's Guidelines	UNGC Reporting Guidelines International Integrated Reporting Framework	Global Impact Investing Ratings System (GIIRS) Sustainability Accounting Standards Board (SASB)	International Financial Reporting Standard (IFRS) U.S. Generally Accepted Accounting Principles (GAAP)	Security Regulation (SEC, others) Disclosure regimes (incl. Evolving non-financial reporting requirements, the EU Directive)

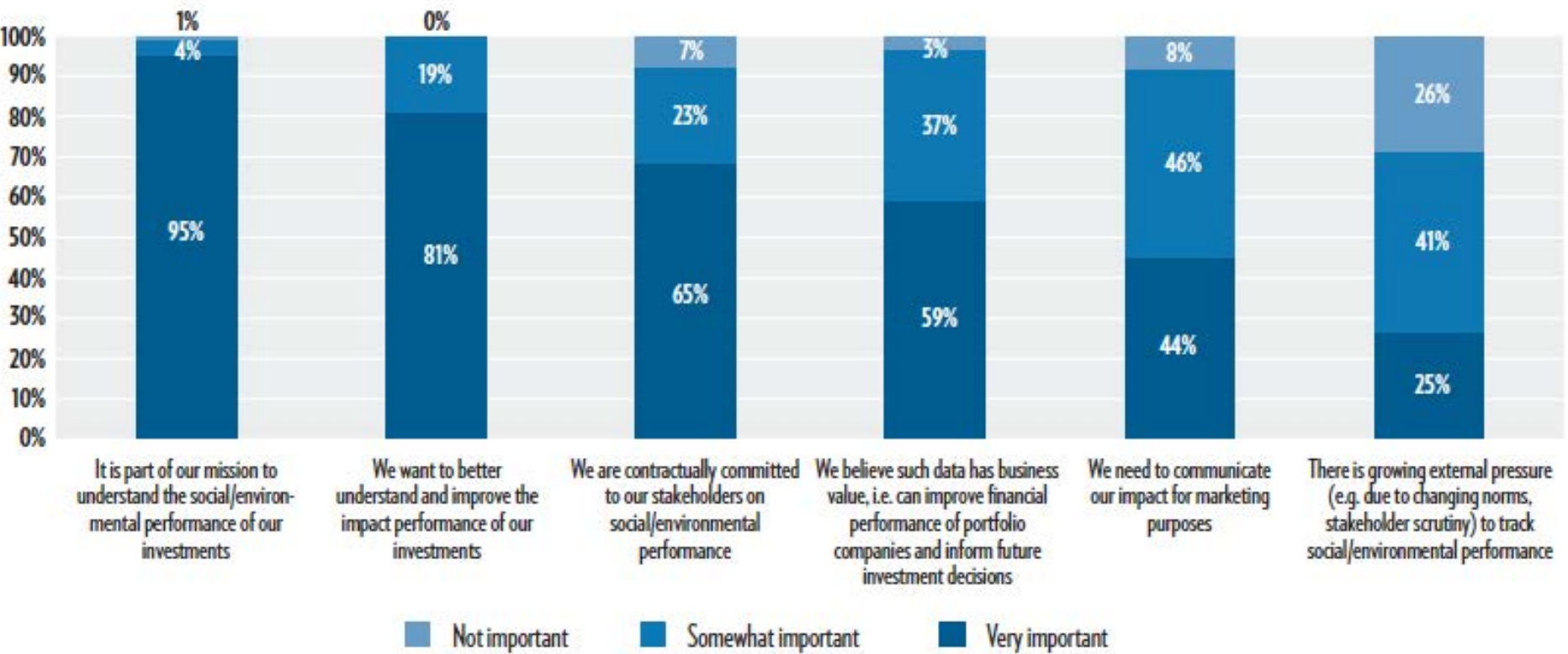
4. 社会的インパクト投資における社会的インパクト評価の現状

□社会的インパクト投資家の99%は、「社会・環境パフォーマンス評価は自分たちのミッションの一部だ」と認識しており、100%は「パフォーマンスをより良く理解し、これを改善したい」と望んでいる。また、93%が「契約でこれにコミットしている」とし、97%が「このようなデータはビジネス価値を生み出す」と考えている。
 (Abhilash Mudaliar et al. (2016))

社会・環境パフォーマンス評価理由

Figure 39: Reasons for measuring social and environmental performance

n = 155; Listed in order of percentage of respondents selecting 'very important'. Some respondents chose 'N/A', and these are not shown here.



4. 社会的インパクト投資における社会的インパクト評価の現状

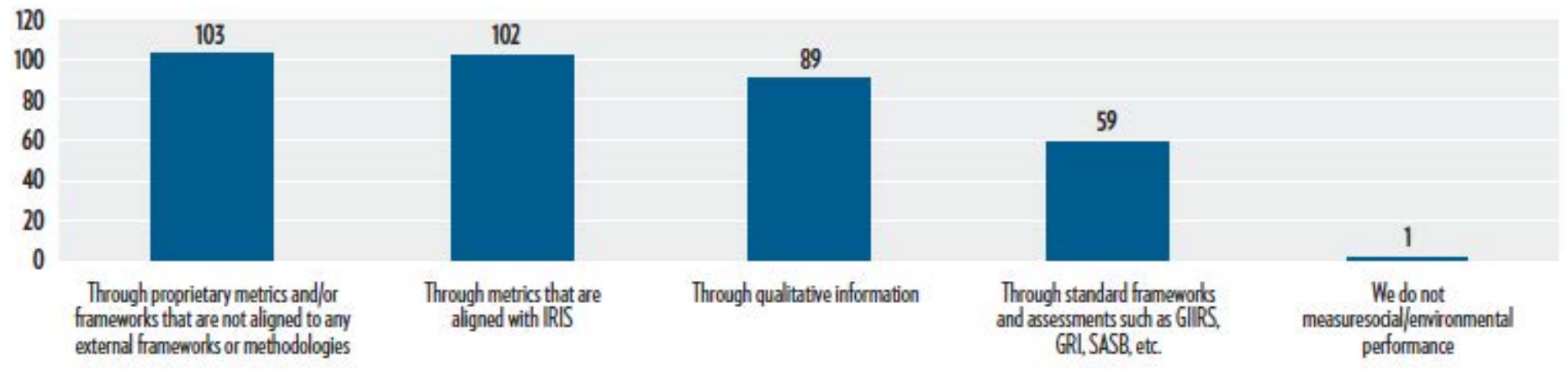
□パフォーマンス評価手法については、社会的インパクト投資家の66.5%が「独自のメトリックス」を、65.8%が「IRISに準拠したメトリックス」を、57.4%が「質的情報」を、38.1%が「GIIRS、GRI、SASBなどの標準枠組み」をそれぞれ利用していると回答。

(Abhilash Mudaliar et al. (2016))

社会・環境パフォーマンス評価手法

Figure 40: How social/environmental performance is measured

Respondents could select multiple options; number of respondents that selected each option shown above each bar.



4. 社会的インパクト投資における社会的インパクト評価

□社会的インパクト投資家の80%が、「投資先の社会・環境パフォーマンス・データをビジネスの意思決定に利用している」と回答。

□データの利用目的については、「案件審査・デューデリジェンス」が65.2%、「投資マネジメントの改善」が47.1%、「ポートフォリオの決定」が45.2%、「製品やサービスのデザインや洗練」が35.5%、「出口戦略の決定」が32.3%、「投資先の運営効率の向上」が31.0%などとなっている。

(Abhilash Mudaliar et al. (2016))

社会・環境パフォーマンス評価データの利用状況

Figure 41: Do you use data on investees' social and environmental performance to inform business decisions?

n = 158

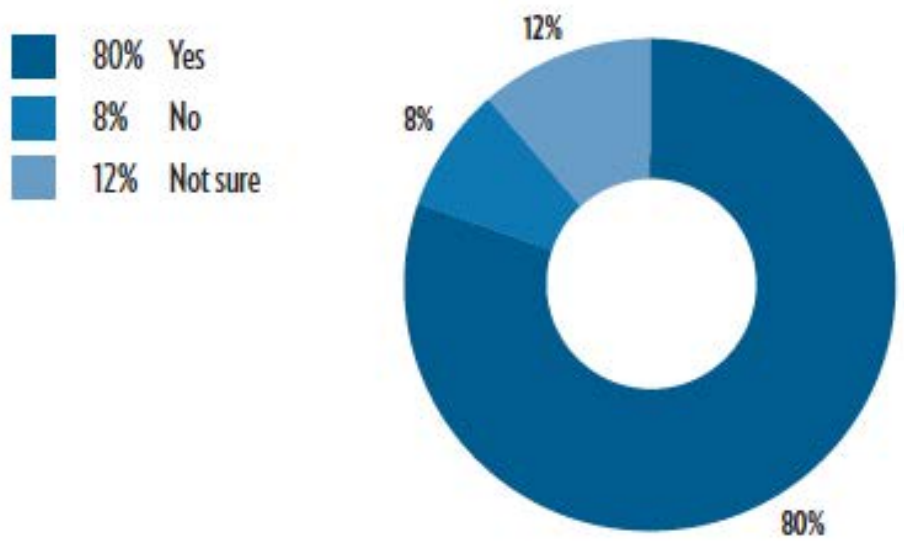


Figure 42: How do you use data on investees' social and environmental performance to inform business decisions?

Number of respondents that selected each option shown.



4. 社会的インパクト投資における社会的インパクト評価

□社会的インパクト評価のマネジメント体制については、「投資チームが担っている」が56%、「インパクト評価チームと投資チームが分担している」が23%、「独立した評価チームを結成している」が15%となっている。「外部専門家に頼っている」という回答はわずか1%しかない。

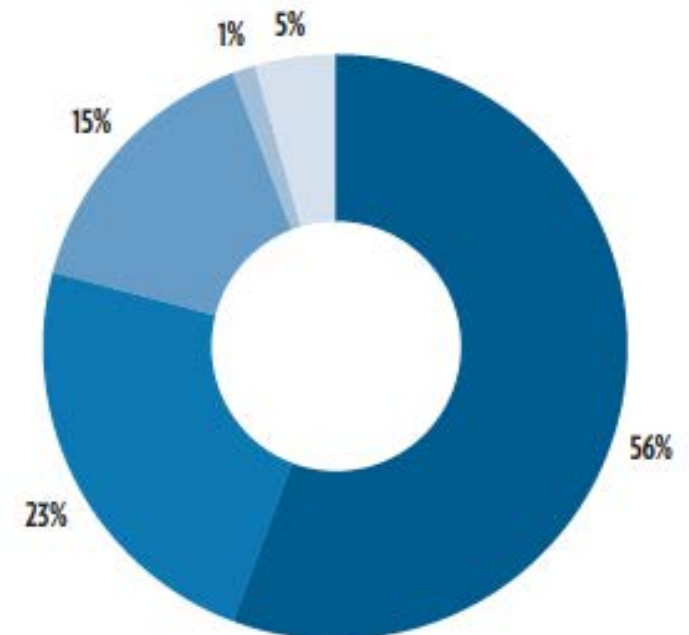
(Abhilash Mudaliar et al. (2016))

社会・環境パフォーマンス評価体制

Figure 43: Who is principally in charge of managing the social/environmental performance of your investments?

n = 158

- 56% Our investment team is responsible for this
- 23% Impact measurement team and investment team share responsibility equally
- 15% We have built a standalone team that is responsible for this
- 1% We mostly rely on external expertise
- 5% Other



5. 社会的インパクト投資の課題と展望

■ 課題

1. 「社会的インパクト評価(IM)」 そのものに対する疑問
 - 事業者が短期的で分かりやすい成果を志向。結果的に、中長期的な社会変化に向けたアドボカシー活動や基礎研究、イノベーションなどがおろそかに
2. 社会的インパクト投資家による一方的な評価指標の設定
 - 事業者側の「ミッション漂流」や「クリーム・スキミング」、「虚偽報告」などの問題
 - 事業者の事業改善や、財・サービスの向上などに活かされない
 - 共通化・標準化の進展により、事業者の固有性や質的側面に対する評価がおろそかに

■ 新たな動き

1. 現地の事業者の業務改善や財・サービスの向上に資することを目的とした評価手法の開発
例) アキュメン・ファンドのリーン・データ
2. マルチ・ステイクホルダーの参加を重視
例) Skopos Impact FundとBridge Impact+が提唱する「インパクト・マネジメント」
3. その他
 - 「集合的インパクト」評価手法の開発
 - 「ネットワーク・インパクト」評価手法の開発 等

- ❑ Abhilash Mudailiar et al. (2016) “2016 Annual Impact Investor Survey” (GIIN, US)
- ❑ EVPA (2013) “A Practical Guide to Measuring and Managing Impact” (EVPA)
- ❑ Jane Reisman et al. (2015) “Streams of Social Impact Work: building bridges in a new evaluation era with market-oriented players at the table”. (Rockefeller Foundation Evaluation Office, USA)
- ❑ Lisa Hall et al. (2016) “More than Measurement: A Practitioner’s Journey to Impact Management” (Skopos Impact Fund & Bridges Impact+, UK)
- ❑ R. Puttick & J. Ludlow (2012) “Standards of Evidence for Impact Investing” (Nesta)
- ❑ Social Value International (2013) “Principles of Good Impact Reporting” (Social Value International)
- ❑ Social Impact Investment Taskforce (2014) “Measuring Impact” (Social Impact Investment Taskforce)
- ❑ Tom Adams et al. (2015) “Innovations in Impact Measurement” (Acumen Fund, USA)
- ❑ FASID「社会的インパクト評価促進に向けた現状調査と提言」(FASID、2015年)
- ❑ G8社会的インパクト投資タスクフォース「社会的インパクト投資：市場の見えざる心」(国内諮問委員会、2014年)
- ❑ G8社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会「日本におけるインパクト投資の現状」(国内諮問委員会、2014年)
- ❑ G8社会的インパクト投資タスクフォース国内諮問委員会「社会的インパクト投資の拡大に向けた提言書」(国内諮問委員会、2015年)
- ❑ レスター M. サラモン著「フィランソロピーのニューフロンティア」(ミネルヴァ書房、2016年)